

笹川保健財団 地域啓発活動助成
助成番号：2022－001

2023 年 2 月 28 日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜 多 悦 子 殿

2022 年度笹川保健財団地域啓発活動助成 活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

「精神看護をもっと深く学ぶ会」

所属機関・職名 滋賀医科大学・教授

氏名 河村奈美子

1. 活動の内容・実施経過

1) 活動の目的

近年精神疾患は5大疾患となり、患者数は増加している。そしてまた、精神医療や精神ケアの提供される場も地域に移行し、医療機関を中心としたケアから、地域生活を支援するケアの重要性が認識されるようになった。実際に、看護を提供する場は、病棟から地域、学校などあらゆる場へと広がっている。

精神看護については、このような社会背景を受け、精神ケアを必要とする対象者の増加や、また対象者の持つ疾患にも多様性が大きくなっているように考えられる。ケアに携わる看護師は、病院における急性期治療から地域生活へのシームレスなケアの継続において、精神的ケアをどのように実施するのかという課題意識が高まっている。そして、精神疾患を持つ対象者の地域生活を支える訪問看護師等を含めた「看護職者の学びを通じた情報交換の場」や「サポートし合える場」は十分整っているとは言えず、看護師は日々ケアの実践をしながらも、悩むことも多い。

そこで、この活動の目的として、学習意欲・働く意欲につながる精神看護の学習会を企画することにより、令和2年度は看護師が学習を通して相談し合える場を提供し、定着させることを目指し、それを踏まえ、令和3年度は、学習コミュニティの形成を目指した。

これにより、精神科医療にたずさわる看護職者等のつながりの定着と、つながることのできる関係を基盤にした多職種に対する理解や相談が可能になると考えている。さらに、一人で活動する場面の多い看護師や、学習に対してブランクのある方も参加しやすい場を創ることにより、参加者の自信や、自身の看護技術を高める意欲にもつながり、それは、日々の患者ケアに還元されたと考えた。

そして、昨年度までの2年間は笹川保健財団の助成を受け、訪問看護師、医療施設の看護師との共同の学習会を運営してきた。3年目となる今回は、第3ステージとして、精神看護の知識の共有とともに相談しあえるコミュニティの形成と定着を目的とする。

2) 活動の方法

学習会の開催準備：4回の精神看護学に関する学習会を企画した。内容は、すぐに一人でも使うことの出来る看護技術や対象理解に関するものとした。また、今年度は複数参加経験を持つ参加者も増えているため、知識の共有が進み、事例検討において深いディスカッションを期待し、第1回と第3回は事例検討会とした。

講義の担当として、企画者の他に、第2回目は、町田佳世子氏（札幌市立大学名誉教授）、第4回目は、阿保順子氏（北海道医療大学名誉教授・長野県看護大学名誉教授）の協力を得て開催した。

※尚、2022年度笹川保健財団地域啓発活動助成を受け実施したのは第2回～第4回の3回であるが、学習会としては全4回の内容で構成したため、本報告書では全4回の内容を記載する。

(1) 学習会開催スケジュール

日程	テーマ	内容
第1回 5/21	事例検討会（精神構造の理解を含む）	テーマを中心とした講義 もしくは事例＋グループ ディスカッション＋ディ スカッションの発表
第2回 8/20	コミュニケーション実践の“なぜ？”を考える	
第3回 11/12	事例検討会（精神構造の理解とアセスメントを含む）	
第4回 2/4	精神構造の理解と精神看護における看護の役割	

(2) 対象者：精神看護の実践に関心のある医療系の専門職者

(3) 学習会・事例検討会（150分）：今年度は、これまでの2年間で学習した精神構造やそのアセスメントを踏まえた全体のアセスメントから看護の方向性のディスカッションを踏まえ、コミュニケーションの学習や事例検討（対象の精神構造を中心とした統合的な対象理解と看護）により構成した。

(4) 学習会のスケジュール：1回を150分とし、①講義（重要かつ基本的な内容）、②グループワークによる事例や課題の検討（講義内容を踏まえ事例を通して捉える：事例は個人が特定されないよう加工して説明する）、③グループワークの発表とディスカッション（グループワークによる内容を紹介し全体で議論する）を基本構成とした。

(5) 1～4回各回の評価：参加者から、感想、満足度について評価を得た。終了後のコミュニケーションとして、積極的意見交換ツール LearnWiz One を活用し、学習会の感想を共有した。

2. 活動の成果

第1回を5月に開催し、予定通り学習会を実施した。打ち合わせはZoomを中心に実施した。さらに、学習会は希望により滋賀医科大学からも参加を可能にした。

1) 学習会の開催準備

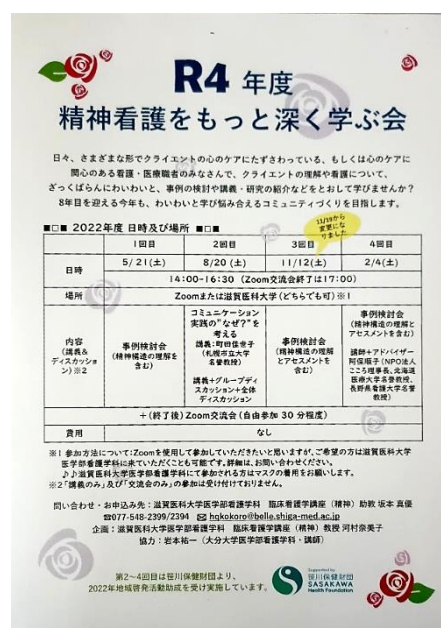
フライヤーの郵送：予定通り、滋賀県を中心に近畿圏（滋賀県、京都府、大阪府）と九州、関東へ学習会の案内を郵送した。（精神科系の病院、訪問看護ステーション、教育機関(大学)）

また、笹川保健財団のHPにも掲載を依頼した。

終了後の参加者へのアンケートはオンライン入力ツール（Google）を活用した。意見交換には、参加者で意見を視ながらシェアできるアプリとして「LearnWiz One」を使用した。

2) 活動環境の準備

学習会の開催に必要な物品の購入：ホワイトボード、ポストイット、郵送料、フライヤー印刷費



R4 年度 精神看護をもっと深く学ぶ会

日々、さまざまな形でクライアントの心のケアにたずさわっている、もしくは心のケアに関心のある看護・医療職者のみなさんで、クライアントの理解や看護について、ざっくばらんにわいわいと、事例の検討や講義・研究の紹介などをおして学びませんか？
8年目を迎える今年も、わいわいと学びあえるコミュニティづくりを目指します。

■ 2022年度日時及び場所 ■	1回目	2回目	3回目	4回目
日時	5/21(土)	8/20(土)	11/12(土)	2/4(土)
場所	Zoomまたは滋賀医科大学(どちらでも可)※1			
内容 (講義・ディスカッション)	事例検討会 (精神看護の理解を深める)	講義：時田佳子 (滋賀医科大学看護学教授)	事例検討会 (精神看護の理解とアセスメントを深める)	事例検討会 (精神看護の理解とアセスメントを深める)
費用	なし			

※1 参加方法について：Zoomを使用して参加していただきたいと思いますが、ご希望の方は滋賀医科大学医学部看護学科にきていただくことも可能です。詳細は、お問い合わせください。
※2 講義のみの参加は受け付けておりません。

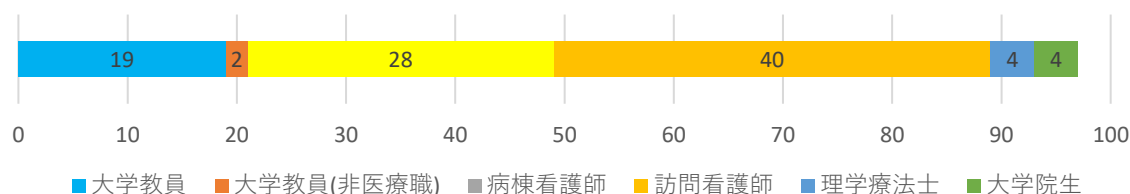
問い合わせ・お申込み先：滋賀医科大学医学部看護学科 臨床看護学講座「精神」助教 安本 真優
077-518-2399 / 2394 | hakokan@bellin-hioka-med.ac.jp
企画：滋賀医科大学医学部看護学科 臨床看護学講座「精神」教授 河村 美子
協力：若本 祐一（大分大学医学部看護学科 講師）

第2～4回目は笹川保健財団より、2022年地域啓発活動助成金を受け実施しています。

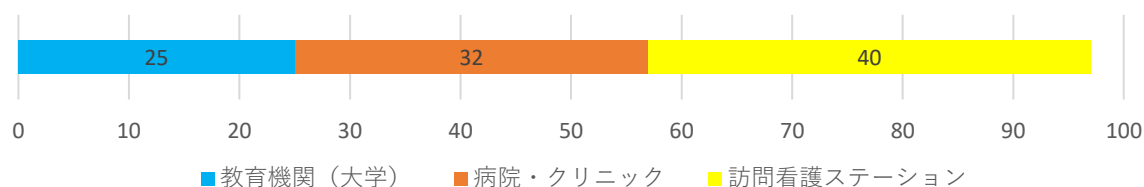
3) 参加者の概要(主催者1名、講師1名を含む)

日程	参加者数	参加人数と参加者の所属所在、() は人数
第1回 5/21	23名	滋賀県内 (14)、近畿 (3)、東北 (1)、九州 (5)
第2回 8/20	23名	滋賀県内 (13)、近畿 (5)、関東 (1)、東北 (1)、九州 (2)、北海道 (1)
第3回 11/12	23名	滋賀県内 (13)、近畿 (4)、中部 (1)、関東 (2)、東北 (1)、九州 (2)
第4回 2/4	28名	滋賀県内 (10)、近畿 (6)、関東 (1)、東北 (2)、九州 (7)、北海道 (2)

(1) 1～4 回目の参加者 (のべ 97 名：主催者1名、講師1名含む) の主な業務 (人)



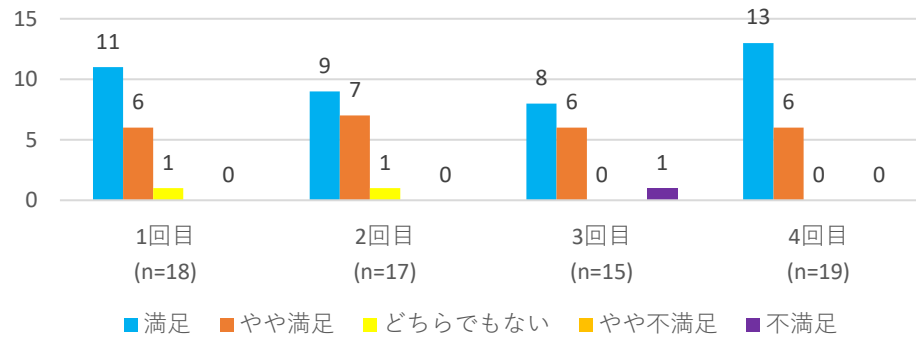
(2) 1～4 回目の参加者(のべ 97 名：主催者1名、講師1名含む) の所属機関の種類 (件)



(3) 終了後アンケートによる、満足度及び感想 (各回自由記載欄抜粋、主催者と講師は除く)

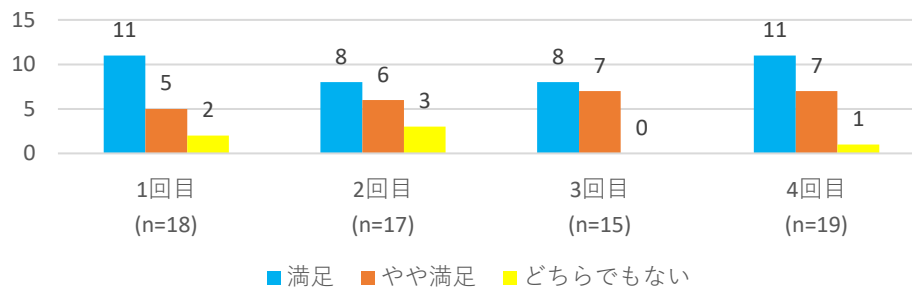
各回における学習会満足度、学習会の「楽しさ」、学習会の「雰囲気」、意見交換についての回答件数

学習会の満足度



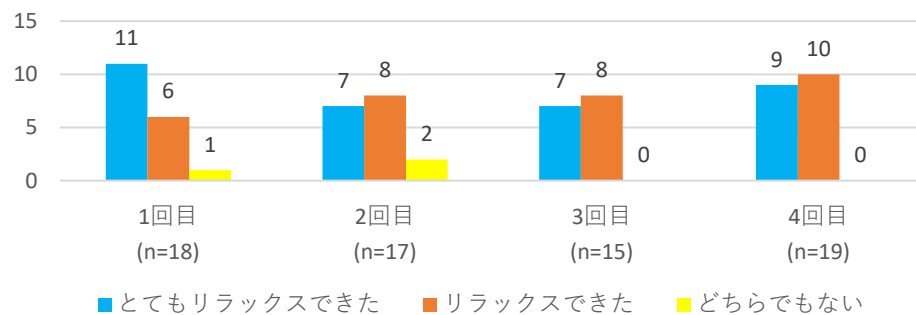
(「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満足」「不満足」にて回答を求めた。「やや不満足」の回答はなかった。)

学習会の楽しさ



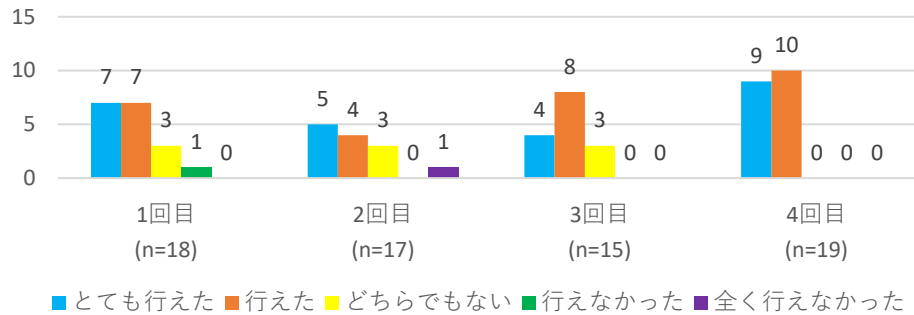
(「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満足」「不満足」にて回答を求めた。「やや不満足」「不満足」の回答はなかった。)

学習会の雰囲気



(「とても親しみやすい」「親しみやすい」「どちらともいえない」「堅苦しい」「やや堅苦しい」にて回答を求めた。「堅苦しい」「とても堅苦しい」の回答はなかった。)

意見交換を十分に行えたか



(「とても行えた」「行えた」「どちらともいえない」「行えなかった」「全く行えなかった」にて回答を求めた。)

(4) 各回における感想の自由記載の紹介

アンケート自由記載 (1～4回の合計48件) より抜粋

[第1回] (n=10)

- ・参加人数について、本日20人ほどでちょうど良いと感じた(参加者の顔や発言を意識しやすかった)
- ・精神構造等勉強不足なため参加してもついていけるだろうかと思っていましたが、自由に話せる雰囲気に助かりました。

[第2回] (n=3)

- ・いつも、時間が足りないと思ってしまいますが、短い時間の中で、グループの意見をまとめるトレーニングにもなり、私にとってディスカッションの勉強の場でもあります。
- ・ケース自体をとらえる方法やとらえ方については、精神分野は専門とするところだと思いますので、今回の学習会ではそれが学べるので、有難いです。

[第3回] (n=8)

- ・ケース検討はとても学び深いと思います。精神構造の理解を通して、生物心理社会的な関連を推察する訓練になるように思いました。
- ・3か月に1回というスローペースがとても参加しやすいです。

[第4回] (n=7)

- ・こちらは精神科の入院ベッドは少ない地域ですが、地域での受け皿は少なく、訪問看護全体の底上げや、福祉や行政との連携はまだ勉強不足なので学んでいきたいです。
- ・精神構造であるようにそれぞれの期によって関わり方を変えていく、長い目でみていくことは訪問看護では大切なこと。これらを訪問看護師が学び、現場で活用していけるよう自身の業務の中で考えて行きたいと思いました。

4回目参加の様子 (Zoom 写真)



参加者には報告書への掲載の承諾を得ています。

4) まとめ

笹川財団の助成を受けた学習会としては3年目を迎え、参加者もZoomの機器を使いながら、機器トラブルはほとんどなく4回の学習会を修了した。講義やディスカッションに今回は、医療職者ではなくコミュニケーションの専門家を交えて交流することからも看護のディスカッションの深まりや拡がりが見られたように感じられた。

第4回目の最終回は、2名の新たな遠方の訪問看護後ステーションからの参加者を含みそれ以外は複数回参加経験者であった。そして、同じ問題意識をもち、意欲を持つ看護職者が集まり学習したりディスカッションをすることの面白さや、緩い繋がりの重要性、継続性について、参加者が感じているようにもうかがえる。

3. 今後の課題

今回は、この学習会のほかに臨時の事例検討会の開催の希望があり、3回ほどこの4回に加えて開催した。形式的ではなく、事例を出し様々な専門家やいつもの学習会参加者からの意見を得たいと感じられる参加者があった。ここから、この3年間の取り組みをい通して、学習コミュニティの定着が図られてきたともいえるように考えられる。

4. 活動成果等の公表予定（学会、雑誌）

今後の学習会の継続実施について

今回の学習会の実施は、ある程度の参加者の人数の定着が見られてきている。この4回では平均参加者が20～30名となり、新たな参加者も見られている。今後、事例検討会を持ちながら、看護だけにとどまらず多職種の専門家による知識の紹介やコミュニケーション等、幅広い範囲の学習機会とすることも、有効であるように考えられた。今後も、専門家が自身の職場の範囲を超えて、さらに分野を超えて議論しながら看護について検討できる学習コミュニティの運営の工夫が必要であると考えられる。

今後、看護系学会にて学習会の報告を検討したいと考えている。